

大井田病院での防災・避難心構え

【火災の場合】

- ① 火災を発見した職員は直ちに初期消火を行うと共に、付近の職員に火災の発生を知らせる事。※天井まで延焼した際は、直ちに消火を中止し避難する事。
- ② 本部の指示に従い、落ち着いて避難する事。※普段から避難経路等を確認しておく事。
- ③ 避難の際にはエレベーターを使用しない。

【地震・津波発生の場合】

- ① 南海地震では宿毛市は、震度6強の地震が予測されており、強い揺れは120秒～150秒程度続く。
- ② 地震発生後、宿毛市には5㍍～10㍍の津波が30分で到達することが予想され、大井田病院（海拔4.3㍍）には、5㍍～10㍍の津波が、約30分で到達すると考えられる。10㍍の津波が到達した場合、2階の床から1.8mの高さまで浸水する。（※津波の高さ・到達時間は、想定以上のことも起こりうることから常に注意しておく。）
- ③ 津波は2波、3波と何度も繰り返すことから、第1波が最大であるとは必ずしもいえない。津波警報が解除されるか、少なくとも6時間以上は海岸に近づかないよう患者及び職員への周知を図る。
- ④ 大井田病院は、津波災害における一時避難指定建物となっていることから、地域住民の避難を受け入れ、外来患者と共に4F以上に避難させる。また、職員も状況を確認し避難する。
- ⑤ 東南海・南海地震に伴う津波警報が発令されたとき又は地震が発生したことを覚知した職員は、直ちに管理部及び守衛（夜間）にその旨を報告する。また、必要時には、館内放送にて患者及び職員への周知を図る。
- ⑥ 職員・患者等（送迎・外出等）への緊急連絡網は、各部署事前に準備しておく。
- ⑦ 災害備蓄品は、毎年3月・9月に適時在庫量を確認する。
- ⑧ 飲料水は、非常用飲料水として、500ml×540本（患者用：270ℓ）、500ml×300本（職員用：150ℓ）、貯水槽（23t）・高架水槽（4.5t）で災害時は1日間確保できる。（※津波発生時貯水槽は使用不能の可能性大。）
- ⑨ 自家発電機稼働は、最大発電時計算で約1日可能。（※屋上タンクに950ℓ軽油備蓄有り）
- ⑩ 大井田病院は救護病院である。
※救護病院とは、市町村区域内で発生した重症患者及び中等症患者の処置及び収容など、当該市町村の医療救護活動の中核を担うため、市町村長が当該病院の管理者と協議し指定する医療救護施設。